

## 第2回展示入替検討委員会(書面開催)における主な意見とその対応について

資料 1

令和3年10月27日  
福岡市保健福祉局総務課

	意見等	今後の対応
(1)資料	<p><b>①計画的な保存修復の実施</b> 歴史的な資料が展示により劣化することを防ぐためには、複製品(レプリカ)の活用が現実的。今後も展示を継続していくためには、保存処理や修復、複製品制作の経費等を、ランニングコストのひとつとして考えていく必要がある。</p>	<p>資料の保存修復費用、レプリカ制作費用をランニングコストとして捉え、毎年一定額を予算確保を目指す。</p>
	<p><b>②具体的な展示資料のアイデア</b> 博多港入港後も伝染病の検査のために数日間停泊していた具体的な資料があれば、その事例を紹介してはどうか。</p>	<p>事実関係及び該当資料の有無を確認し、タイムリーな展示内容としてディレクターを中心に盛り込みを検討していく。</p>
(2)展示方法	<p><b>①展示方法の工夫と改善</b> 説明キャプションだけでなく、引揚の現場で実際に使用された様子が見られる「写真」を組み合わせることは大きな効果を生むと考える。 一方で、「モノ」が引揚資料となりうるのは、そこにまつわりついた使用者の経験と記憶に大きく依拠するため、「モノ」の背後にある「物語(ストーリー)」を織り込んでいく手法についても検討する必要があるのではないか。</p>	<p>「写真とモノ資料」のセットのみでなく、「ストーリーとモノ資料」のセット展示についても、ディレクターを中心に盛り込んでいく。</p>
	<p><b>②博多港の特徴を捉えた展示</b> 博多港に引き揚げた著名人・漫画家などの作品をあわせて紹介することができれば、新しい展示の試みになると思う。</p>	<p>権利を持つプロダクションに利用の許諾を打診する。</p>
	<p><b>③継続的な展示入替の方策</b> 定期的に資料の見直し・入替を行う「特集コーナーの設置」等、継続的な展示入替の方策は極めて重要であり、ディレクターを含めた議論の場が必要と考える。</p>	<p>第3回検討委員会の中で議論いただく。</p>
	<p><b>④映像資料の活用</b> 現在の展示で観ることができる「映像資料」を、展示入口のホールで流す等の工夫はできないか。</p>	<p>エントランスのデジタルサイネージに映像資料の一部を活用した動画を流し、展示コーナーへの誘導を行う。</p>
(3)その他	<p><b>①誘導サイン</b> ただ展示の存在を主張するだけでなく、入りやすい(言い換えれば、入っても大丈夫だと思える)雰囲気が出せると、より良いものになるのではないかと考える。</p>	<p>誘導サインについては、ただ拡充するだけでなく、気軽に展示コーナーに足を運ぶことができるよう、テキスト・配色・キャラクター使用など、デザインについても工夫する。</p>
	<p><b>②書籍コーナー</b> 書籍コーナーのサインは例えば「引揚の歴史を学ぶ書籍・資料」と紹介してはどうか。</p>	<p>ご意見のとおりテキストを記載したサインを設置する。</p>
	<p><b>③広報</b> 市政だより中央区版での広報に加えて、他に効果的な広報を行う方法はないか。</p>	<p>博物館の企画展示と抱き合わせでの広報についても、検討していく。</p>